

# 花高同窓会会報



## 第 123 号

発行 令和 4 年 3 月 1 日

秋田県立花輪高等学校  
同窓会事務局

〒018-5201 鹿角市花輪字明堂長根12  
TEL0186-23-2126 FAX0186-23-2137  
URL <http://www.ink.or.jp/~hanakoudousou/>

印刷 (株)成文社



### 特集

## 卒業生へ贈ることば



大徳寺住職  
櫻田 勝心  
(二九期)

令和四年春三月、花輪高校卒業生の皆さん、本当におめでとうございます。一人一人の新生活が始まることに、胸がわくわくドキドキしている事と存じます。進学される方、就職される方、いろいろな道に進まれる方、心より幸多かれと念ずる次第です。今、連日テレビを賑わすニュース「新型コロナウイルス感染症は私たちの生活を以前と全く別のものに変えてしまいました。感染をしない、感染を広めない、密を避け外に出るときにはマスクを着用し手洗いを励行する。コロナ問題は新生活に於いての一抹の不安であります。

子供の頃によく不安になって祖母とあれこれ話している。「なんがおめ、悪いことしたの

が？だれがき、なんがしたのが？」  
「なんにもしてね。」  
「んだばなんも気にするごどねえ。ひとさまに迷惑かけないように生きていけばそれだけでいんだがら。」  
と言われ、幼いなりに安心した記憶があります。

いま思い返してみると、もしかしたら私が出家し僧侶となる大きな縁（よすが）だったなあと思っております。

四月からの新しい生活を迎えられるにあたり、不安に苛まれる時があるかもしれません。新しい環境に慣れるまで苦労することも多いでしょう。そんな時はぜひ、「なんも悪いごどはしてね。人様に迷惑かけでね。」と思い、安心して自信をもつて精進し邁進して下さい。

「生きているだけで丸儲け」とは明石家さんまさんの有名な言葉です。

一九八五年に日本航空12便が墜落事故を起こしました。大勢の人が犠牲になった航空機事故ですが、この便に彼も搭乗予定でした。たまたま収録の関係で二便早めたことにより九死に一生を得たそうです。その体験により彼の座右の銘となったものではないでしょうか。どんなことが起ころうと、どんなひどいことがあるうと、生きてさえいれば全くプラスじゃないか儲けじゃないか、と



「経験すること」  
ヨガインストラクター  
阿部湖十恵  
(五八期)

の意味と私は受け取っています。この言葉を贈らせて頂き、さらに皆さんそれぞれのご活躍を祈念し応援の言葉とさせて頂きます。

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。これからそれぞれの道へ進まれる皆様は今どんな気持ちでいるのでしょうか。私は花輪高校を卒業後、東京の専門学校へ進学しました。十六年も前のことになりましたが、その時の期待と不安が入り混じった気持ちは今でも鮮明に覚えています。その後、嬉しいこと、悲しいこと、挫折・失敗、様々なことがあり、今日に続いています。

その中で強く感じたことは「自分の目で見て経験しなければわからない」ということです。「知ったつもり」になっていることは多いのです。私はこの二年、新たに資格を取得するために学びの期間をいただきました。学びにじっくり向き合うというのは久しぶりでした。私は二十代の長い間、専門学校に入り志したことを中途半端にしてしまっただことにずっと負い目のようなものを感じていましたが、今回新たに、学び、それをとにかく

実践する、という中で、何度も経験しなければ得られないものがある。ということを改めて実感し、それを通して、以前の私は経験を積み重ねることをせずに入り口で挫折したと思ひ込んでいたこと、今からでも積み重ねられるということに気がつきました。

私が初めて就職した先の上司は「一生勉強」と言い、常に何かを学び実践している人でした。十年以上たちまもなく七十代を迎えられる今もそれは変わらず第一線でご活躍されています。そのことも思い出しました。生活、地域、人、仕事、多くのことにおいてちゃんと知ろうとしなないと分からないことは沢山あります。失敗という経験にも次に生きる学びがあります。これらの学びに終わりはないのだと思えます。

当たり前のことですが、人の生き方は人数の通りにあります。皆さんもこの先沢山の経験をされると思えます。

どんな道であっても、自分のその目で見て、経験し、感じ、ご自分だけの人生を切り開いていってほしいと思います。皆様の心から多幸を心からお祈りしております。



▲ 自然の中でのヨガ教室

特集  
卒業生へ  
贈ることば



「一番の宝物は  
人とのつながり」  
鷹市屋奈小義校論  
桂田 駿  
(六四期)

旅立ちの春を迎え、日増しにあたたかさが感じられる今日この頃、卒業生の皆様におかれましては、四月からの新生活に胸を膨らませていることとお察しします。

皆様にとって、花輪高校生として過ごした三年間はどんな日々でしたか。体育祭や文化祭、部活動、友人との他愛もない会話など、一つ一つがかけがえのない思い出として蘇っているのではないのでしょうか。また、今まで感じたことのない責任や重圧と戦い、向き合い、日々苦悩しながら学業や部活動に明け暮れた人もいるのではないかと想像します。自身の高校生活を振り返ると、日々、学業と部活動に勤しんでいたことを思い出します。高校生活三年間を「楽しかった」と一言で言い表すのは難しいですが、大人になつた今となれば、いかなる

思い出も美談となり、今この瞬間を支えてくれる人生の糧であったと実感しております。

私は高校在学中に、教師になることを志し、北海道の大学に進学いたしました。その後、地元に戻り現在は教員として勤務しておりますが、ここまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。教員採用試験に失敗し、人生の挫折を経験した私を支えてくれたのは、紛れもなく家族であり、恩師であり、そして、周りの友人たちでした。今、こうして地元の教員としていられるのも、出会った「人」のおかげだと確信しております。

皆様を形作っているものは、「これまで出会った人」であります。そして、この先皆様を形作っていくものは「これから出会う人」です。高校卒業後に出会う人は、自分の人生に大きな影響を与えてくれます。これまで出会った人を大切にすることはもちろん、これから新しい土地、新しい環境、新しい立場、新しいコミュニティで出会う人を、ぜひ大切にしてください。皆様のこれからの人生に幸多からんことをお祈り申し上げます。



▲理科の授業風景



「新しい世界へ  
羽ばたく皆さんへ」  
気象庁総務部人事課係長  
遠藤 美咲  
(四四期)

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんと同じ花輪高校を卒業した者として、また、同世代の息子と娘を持つ母親として、皆さんをこれまで見守つてこられたご家族、先生方、地域の方々と同じ気持ちで、皆さんの門出をお祝いしたいと思います。

私は、一九九二年三月に花輪高校を卒業しました。高校時代は吹奏楽部の活動にのめり込み過ぎて学業は今一つでしたが、縁があつて高校卒業の翌月に気象庁に入庁しました。

気象庁は、気象、海洋、地震、火山などを二四時間監視して、国民の命や生活を守るための情

報をお伝えする役目を担っています。この役目を高い技術力で果たすため、気象衛星やスーパーコンピュータなどを駆使して研究機関や諸外国とも連携し、最先端の科学技術を取り入れながら業務を行っています。

私は入庁以来、職員の採用、研修、表彰、福利厚生などの業務に従事し、主に人事の側面から気象業務をサポートする仕事をしてきました。昨年度まで採用担当者として多くの学生さんと接してきた私から、進学後に就職活動を行う方々へアドバイスを少し書きたいと思います。

就職活動においては、どういった目的を持って仕事をするのか自らの考えを整理し、就職を希望する企業等や業界全体の情報を集めて研究することも必要ですが、お目当ての企業等の事業内容だけでなく、給与、休暇、福利厚生の制度も確認すること、職場の雰囲気も自分に合うかどうか見極めることも大切です。企業等の説明会の他、インターンシップやO・B・O・G訪問等で、生きた情報を集めることが出来れば、就職後のミスマッチを防ぐことが出来ると思います。

そして、心に留めておいて頂きたいのは、採用試験が振るわなくても、その企業等とマッチしなかっただけで、あなたという存在全てを否定された訳ではないということなのです。こうして偉そうな事を書いている私ですが、三十年前は他省庁の面接に何度も落ちて、最後に拾って貰えたのが気象庁でした。三十年経った今も勤務し続けていますので、私にマッチした就職先に巡り合えたと思っています。

皆さんの高校生活の大半はコロナ禍で、様々な制約がある中で我慢を強いられることも多く、知恵を絞り創意工夫を重ねて困難な状況を乗り越えてこられた毎日であつたと思います。

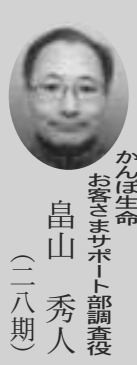
なら、どんなことでもチャレンジできると思います。花輪高校の卒業生としての誇りを胸に新しい世界へ羽ばたいてください。応援しています。

(最後に宣伝です。) 現在私が働いている気象庁本庁は、二〇二〇年十二月に東京都港区虎ノ門の新庁舎に移転しました。一階に港区立みなと科学館、二階には気象科学館と港区のプラネタリウムが併設されています。お近くにお越しの際は是非お立ち寄り下さい。



▲アマチュアオーケストラの一員として

「皆さんの船出にあたって」



かほ生命  
おきまサポト調養

島山 秀人  
(二八期)

花輪高校を卒業される皆さん、ご卒業おめでとうございます。高校生活の二年間はコロナウイルス禍の中で過ごした大切な高校生活は何だったんだろう。"と思つたかも知れません。しかし、春から社会に出ると、先に何があるかわかりませんので、皆さんは大変貴重な経験をされたのだと思つてください。この経験は先輩たちは誰一人として経験していませんから。

私は、鹿角で十九年、千葉で四年過ごし、それから三七年、仙台で郵政の仕事をしてきました。四年前に定年となって、今は後輩のフォローをしています。

この度「卒業する後輩へ贈る言葉を書いて」と言われたとき、真つ先に頭に浮かんだのが、港を離れ、航海に出航する「船」でした。皆さんは四月から、いろいろな事を経験して行くでしょう。泣いたり笑ったり、苦しんだり喜んだりすることでしょう。しかし、皆さんは「自分丸」の船長であり、乗組員であり、乗

客でもありません。自分で行き先を決め、協力し合つて船を動かす、ときには「乗客」になつて周りを見回して見る。こんなことをしながら航海を続け、ある年、下船することになります。

私の六四年の人生から一つだけお話しできるものがあるならば、苦しいとき、悲しいときは、回りの人に「助け」を求めてください。必ず、だれかが手を差し伸べてくれます。船には港があり、いたるところに灯台があり、航海を助けてくれるいろいろな組織があります。助けを求めれば直ぐに駆けつけてくれるのです。人は頼りにされると生き生きとして目一杯頑張つてしまいます。そして、助けた人が元氣になつて飛び立つ、のを見たと嬉しくなつて、また助けたくなるものです。ただし、助けを求め「声」を出さないければ、誰も助けてくれません。知らんぷりです。是非このことを覚えておいてください。



「チャレンジ精神を持つて」



山梨学院大学法学部  
高田 尚暉  
(七三期)

花輪高校卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの春です。大切な仲間とおくつた貴重な三年間は、忘れられない宝物となり、受験や就職活動といった大きな壁を自らの力で乗り越えたことは、皆さんの大きな自信になると思っています。

私は昨年この花輪高校を卒業した後、自身の目標である箱根駅伝に出場する夢を叶えるため地元を離れ、山梨県にある山梨学院大学に進学しました。私にとつてこの一年は挑戦の一年でした。最初に出場した公式大会のレースでは私は、ピリに近い順位でゴールしました。私はすぐに今までの練習や生活を見直し、今までの私は、何事にもおいても現状維持をする事で満足していたことに気が付きました。その後、今まで取り入れてこなかったトレーニングに力を入れたり、練習時間より先に集合場所に行き、他の人より練習量を増やしたりしました。ひとつ一つの行動は小さいものでしたが、継続を心がけました。このように、チャレンジ精神を持って新しいことに取り組み継続をしていく事で、夢で

あつた箱根駅伝を大学二年生にして走ることが出来ました。挑戦をし続けることは簡単なことではありませんが、挑戦なくしては何事もスタートラインにすら立てません。皆さんには自信と勇気をもつて、目の前のことや新しいことに挑戦してほしいと思つています。

最後になりますが、次の言葉を皆さんに贈りたいと思います。夢をかなえる秘訣は、四つの『C』に集約される。それは、Curiosity (好奇心) Confidence (自信) Courage (勇気) Constancy (継続) である。

これは、デイズニーの生みの親であるウォルト・デイズニーの残した言葉です。ウォルト・デイズニーは常に好奇心を持ち、自分に自信を持ったうえで、勇気を持って物事に挑戦してきました。それでは様々なことに挑戦した皆さんと同窓会でお会いできるのを楽しみにしています。

ご卒業おめでとうござります。



▲ 箱根駅伝での力走



吉村 アイ(19期)

新型コロナウイルスのオミクロン株の蔓延で、お正月まで全国一・二番の少ない感染者数であった秋田県も、現在は感染者数が県としては大幅に増えています。

そんな中、一月七日から北京オリンピックが開催され、お隣岩手県八幡平市出身の小林陵侑選手「ジャンプで金メダル」のニュース。スキーが盛んな鹿角市としてはどこよりもうれしいことです。

そして今日(二月十日)、全国高校スキー大会において、女子距離5kmクラシカルで、本校の島山香恋さんが、七日の同フリー準Vに続き優勝のニュースが飛び込んできました。

コロナ禍の中、大会開催が危ぶまれる状況で、大会に向かう選手の気持ちも思うと、その優勝の価値は数倍の値があると思います。

これからも先の見えない新型コロナウイルスとの戦いは続きますが、いつの時代も感染症との戦いはあり、それを乗り越えてきた人類の歴史を思うと希望が見えてきます。

スキー部に激励金贈呈

一月に行われた全県総体スキー競技で、母校スキー部が活躍し、二十人の選手がインターハイに出場することになりました。同窓会から選手並びに顧問の先生方に激励金を贈呈しました。一月三十一日に贈呈式を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大で母校が休校になつている状況を考慮し、贈呈式は中止としました。激励金は校長先生から渡してもらいました。今年度のスキーインターハイはお隣の田山や安比で行われますので、地元の利を生かし、全国に花輪高校の名前を轟かせてもらいたいと思いません。鹿角三高校の統合まで二年余りとなりました。花輪高校の名前での全国大会出場も残り少なくなっています。スキー部の活躍を心から祈っています。



同窓会には目的が二つあります。「会員相互の親睦と研鑽を図る」とことと「母校の発展に寄与する」ことです。

前者については、総会の後の講演会と親睦会や秋に行われるゴルフコンペがあり、ゴルフコンペは今年で十回目となります。各支部でも総会や懇親会が開かれています。

同窓会報を年二回発行し、会員や母校生徒の活躍を報告して会員相互のつながりを強くしています。十一月の会報は住所の分かつている会員全員に発送しており、同窓会活動のメインになっています。

後者では、母校の発展を願ひ、高体連や高文連の全国大会に出場する生徒と先生に激励金を贈呈しています。最近では、スキー部や陸上部、実業部やかるた同好会などが全国大会出場を勝ち取っています。また、進路指導にも助成を行って

います。卒業式の前日には、卒業生に記念品として印鑑ケースを贈呈し、同窓会入会式を行っています。

これ以外にも、役員で旧花輪高校のあつた道の駅あんたらあ近くの記念石碑周りの草取りや清掃を行ったこともあります。

同窓会活動で忘れてはいけないのが、周年行事です。創立九十周年事業や二年後に行われるであろう閉校記念事業などは、どこの高校でも同窓会が主体となつて行われています。先生方には大変ご苦労をおかけしますが、二年後の統合に向けて、私たち同窓会もその在り方を検討し、心に残る閉校が行われるよう願っています。その時は、会員の皆さんにもご協力下さるようお願いいたします。

同窓会の組織や活動については、花輪高校同窓会ホームページやフェイスブックに掲載していますので、こちらも併せてご覧下さい。



<http://www.ink.or.jp/~hanakoudousou/>

総会開催のご案内

日時: 令和4年5月20日(金)

18:00 ~ 総会・講演会

19:00 ~ 懇親会

場所: ホテル茅茹荘

申込: 学校事務室 ☎0186-23-2126

今年は金曜日開催としました。その時期になりましたら、案内をホームページ等に掲載しますので、お誘い合わせの上ご参加ください。



昨年の同窓会総会の様子

「第26回花栄会総会・懇親会開催のご案内」

同窓会東京支部「花栄会」の総会・懇親会を、十分な感染対策をとった上で、4年ぶりに開催いたします。当日は、ノルディックスキー世界選手権金メダリストの小林範仁さん(53期)のお話、民謡甲子園初代優勝者の太田なな子さん(71期)の民謡や鹿角プラス!!の演奏など、楽しい企画を予定しています。皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。

日時: 令和4年7月3日(日) 12~15時

会場: 学士会館

会費: 1万円(71~74期の方は無料)

(案内状は5月中旬発送予定。新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、延期の場合もあり)